

令和 6 年度第 1 回福井支部評議会 議事概要報告

開催日時	令和 6 年 7 月 18 日（木）10：00～12：00
開催場所	全国健康保険協会福井支部会議室（福井県織協ビル 9 階）
出席評議員	木村評議員、クロダ評議員、滝内評議員、土屋評議員、西川評議員（五十音順）
議 題	(1) 2023 年度（令和 5 年度）決算について (2) 2023 年度（令和 5 年度）事業報告について (3) 健康保険証とマイナンバーカードの一体化について
議 事 概 要 (主な意見等)	(1) 2023 年度（令和 5 年度）決算について 事務局より資料に沿って説明 【被保険者代表】 医療給付費の伸びを抑えるために、加入者の健康づくりサイクルの定着と医療費適正化を中心に取組んでいくということだが、かかりつけ医や上手な医療のかかり方の呼びかけはどのように周知していくのか。 【事務局】 休日受診や時間外受診は本人の負担額も増えるため、安易な受診を控えていただくために周知していきたい。具体的には、新聞広告や映画館での動画広告など様々な広報媒体を活用して加入者への理解および行動変容に結び付けていきたい。 【学識経験者】 加入者 1 人当たり医療費の対前年同期比（2023 年度）において、特殊目的用コードの数値は、コロナにかかる医療費という説明があったが、今後もこの表示なのか。 【事務局】 現在はコロナを特殊目的コードに結び付けているが、今後は承知していない。 【学識経験者】 協会けんぽとして適正な準備金残高はどの程度と考えているか。 【事務局】 法定準備金は保険給付費等の 1 か月分相当とされているが、協会けんぽ発足以前には当時の財政規模で実質約 5 か月分に相当する準備金等が 10 年程度で枯渇したことがある。この度、約 6 か月分を保有することとなったが、医療の高度化や高齢化を考えると、楽観を許さない状況である。 【学識経験者】 2023 年度決算見込時の準備金残高であっても十分とは言えない。全体のスケールが大きくなると、

何かあったときに現在の準備金残高では足りなくなるのではないかと感じた。

(2) 2023 年度（令和 5 年度）事業報告について

事務局より資料に沿って説明

【事業主代表】

1 年間で多くの事業に取り組まれていることに感激した。私自身、この評議会を通して健康でいることの大切さや保険証返却の重要性などについて知ることができた。評議会以外でも、事業所と連携して協会けんぽが実施している事業をより幅広く周知し、流布していくとより良いと考える。

【被保険者代表】

取り組みが素晴らしい。被扶養者の健診はなかなか受診に結びつかない。被扶養者によりアピールできる方法を検討してほしい。また、会社でうつ状態になっている人が多いと聞いている。傷病手当金の給付も増えていることから、ぜひメンタルヘルス対策にも取り組んでほしい。

【学識経験者】

健診機関 31 機関、特定保健指導 11 機関から変動はないか。

【事務局】

ない。

【学識経験者】

先ほど話にもあったが、特に嶺南地域の健診機関が少ない現状であるため、巡回健診の実施回数増加に積極的に取り組んでもらいたい。また、健診実施率など KPI が未達成の項目については早期発見・早期治療につなげるためにも目標達成に向け取り組んでほしい。

【学識経験者】

柔道整復施術療養費の申請に占める施術箇所 3 部位以上かつ月 15 日以上 of 施術の申請の割合について、なぜ今年度から KPI 設定がなくなったのか。

【事務局】

協会けんぽ全体で、3 部位以上かつ月 15 日以上 of 施術の申請割合が 1%以下となったためである。

【学識経験者】

取り組みについて十分理解した。健診後の医療機関への受診勧奨についてだが、健診後に文書の案内だと時間が経過し、無視されてしまう。個人情報観点から難しいかもしれないが、事業主や総務担当から呼びかけることも大事だと考える。

また、案内文書をただ送るだけでなく、知恵を出し合って、工夫していくことが重要だと考える。

例えば、ジェネリックを処方する際、医師からジェネリック切り替えを勧められると、本人も選択しやすいのではないか。薬剤師や医師に強く働きかける仕組みがあると良いと考える。

【事務局】

福井支部では、昨年度にジェネリック使用割合が低い医療機関や薬局を 30 機関リストアップして訪問のうえ意見交換を行った。国の政策や協会けんぽの取り組みについて説明し、協力を依頼した。その中で理解いただけた場合もあったが、一部ジェネリックに対して否定的な意見もあった。引き続き加入者だけではなく、医療機関側にも根気良く働きかけを行っていきたい。

【議長】

特定保健指導の初回面談の外部委託率について、県内の健診機関はマンパワー不足を理由に実施者数が低いということだが、外部委託率が低い他の支部は同じ理由なのか。

【事務局】

他支部の細かい事情までは把握できていないが、他の会議で情報交換をする中でマンパワー不足という話を聞くので、同じような事情ではないかと推測される。

【議長】

人間的な心理でいうと、健診受診当日が一番自分の健康を気にしていると思われるため、当日に初回面談を実施するのが効果的ではないかと考える。

ジェネリック医薬品軽減額のお知らせの切り替え率や切り替え人数などを見ると、かなり効果があったように思われるが、今後も軽減額通知は続けていくのか。

【事務局】

令和 6 年度において全国一括発送はなくなった。各支部の課題に応じてターゲットを絞り、通知する方針となった。福井支部では、若年層をターゲットにして通知を発送する。

（３） 健康保険証とマイナンバーカードの一体化について

事務局より資料に沿って説明

【学識経験者】

9 月に既存加入者向けに資格情報のお知らせを送るとのことだが、マイナンバーの紐づけができていない人が、9 月以降に紐づけをした場合どのように紐づけされたかの確認をしたらよいか。

【事務局】

マイナポータルで自身で確認できる。

【議長】

マイナ保険証のメリットとして、重複投薬などのリスクを減少できるということだが、医師はどのように他の医療機関での投薬状況を確認できるのか。

【事務局】

医療機関でマイナ保険証をカードリーダーに読み込ませると、投薬情報の提供に対する同意の有無についての質問があり、本人が同意すれば他の医療機関でも投薬情報が確認できる。なお本人の同意のもと提供されるため、個人情報の配慮はなされている。

以上

特記事項

- ・新聞社 1 社が傍聴
- ・次回評議会は令和 6 年 10 月を予定